

私立大学図書館協会 2013年度西地区部会研究会 レジュメ

基調講演

「今、山田方谷に学ぶ」

方谷研究会会長 朝森 要

一. 注目の的方谷

方谷は、備中松山藩の藩政改革を見事成功させるとともに、藩主板倉勝静の政治顧問としても活躍した人物である。このような経歴から、昨今行財政改革という現代的テーマから注目されるとともに、方谷のNHK大河ドラマ化の運動も展開されている。

二. 備中聖人方谷

方谷は、名は球、通称は安五郎、方谷は号である。高梁市中井町の農商の家に生まれた。五歳の時から新見藩儒丸川松隱に学び神童といわれた。のちに江戸へ遊学して陽朱陰王と評された佐藤一斎に学び、方谷は朱子学徒から陽明学徒となった。抜擢されて元締役兼吟味役となつた方谷は、名君賢相型の藩政改革を断行した。改革は、上下節儉・借財整理・殖産興業・藩札整理・軍制改革・民政刷新であった。改革の成功は他藩にまで聞え、長岡藩士河井継之助をはじめとして方谷に理財を問うために視察に来る者が跡を絶たなかつたという。この改革は単に藩政の立て直しを意味しただけではなく、改革の成功により勝静が、奏者番兼寺社奉行、及び老中への昇進の一因となつたこと、また幕末動乱期における勝静の活躍の経済的基盤となつた点で注目すべき改革であった。

改革政治家、儒学者、思想家で漢詩人でもあった方谷は、また優れた教育者でもあった。

方谷は、藩校有終館・家塾牛麓舎・郷校閑谷精舎(閑谷学校)などで多くの人材を育成しており、方谷の教育界に与えた影響は誠に大きかつた。

三. 方谷の言葉

- (一) 大信を守らんと欲せば、小信を守るに違なし。
- (二) それ善く天下の事を制する者は、事の外に立ちて、事の内に屈せず。
- (三) 学問の道は誠意のみ。
- (四) 義を明らかにして利を図らず。

私立大学図書館協会 2013年度西地区部会研究会 レジュメ

研究発表 1

「自動書庫の光と影」

中京大学図書館 渡辺 英二

中京大学図書館は、書庫スペースの確保等の理由から2010年7月に80万冊収容可能な自動書庫を当大学名古屋キャンパス6号館地下に設置した。主に閉架書庫に配架されていた図書を自動書庫に移すためであった。(現在、約33万冊収納)

東海地方の大学図書館としては初設置ということもあり、見学のため来館される大学図書館もまわった。その中には某大学副総長も来館されたこともあり、えらいものを設置したという思いになつたことあった。

さて設備だけ見れば機械が自動的に利用者の指示した図書(のコンテナ)を運び出してくれるのだから、学内、学外を問わず、見学された方が「はーすごい」という感嘆の声が上がるうなずけることだろう。しかしあたして利用者にとって自動書庫に収納されている図書を利用することは、その過程において都合がいいのか、悪いのかということを考えた時、疑問がわき起つてきた。

そこで当館自動書庫の設置経緯を報告するとともに、自動書庫は利用者にとってどのような影響を与えたかを事例を踏まえ、考察したいと思う。

私立大学図書館協会 2013年度西地区部会研究会 レジュメ

研究発表 2

「図書館利用率向上への取組み」

福井工業大学図書館 小原 正豊

本学では、18歳人口の減少による大学全入時代の先行き不透明な状況において、地方の単科大学(工学部)としてさまざまな改革が行われてきた。その中で本学における図書館の役割を考えてみると、単に学習の場の提供としての図書館ではなく、さまざまな取組みで学生の満足度を向上させることが必要であり、大学の施設として、受身の図書館から積極的に利用者(学生)のニーズに答える図書館に変化させることが重要であると考えた。他大学の事例なども参考にし、また数年前から全学生対象にアンケートを実施し、図書館利用者の満足度向上に努めている。平成23年5月には、学生アンケートの結果も踏まえ図書館施設を一部増設することにより、新たにラーニングコモンズを設置したのを初めとし、図書館を積極的に利用してもらうために新入生を対象に図書館利用者講習会や、廃棄対象となった一般雑誌のリユース、図書委員の学生・教員にカタログによる新刊図書の選定を依頼するなど、利用者の増大を図るための企画を実施してきている。また、今年度より学生の要望に答えるべく開館時間を延長し、平日は8時30分から22時、土曜日は8時30分から17時30分までの開館とした。そのほかでは、図書館の利用状況によるポイント制を導入し、図書カードや学食券を進呈するなどの企画も開始しており、一人でも多くの学生に図書館を利用してもらうだけでなく、すでに利用している学生の更なる満足度の向上を狙っている。

今回の研究発表では、本学が利用者の満足度向上に向け模索しながら実施していることについて、事例発表させていただきます。

研究発表 3

「図書館留学」の取り組み

神戸学院大学図書館・情報処理センター 石原 明美

「図書館留学」は、本学図書館がイニシアチブを取って企画・展開している教職協働の学習支援の取り組みです。2011年4月より始まり、2年が経過しました。

「図書館留学」の目的は、就職活動においても重要視されている英語力につけるための様々な支援を行うことにより、教育の場としての図書館の位置付けを明確にしようとするものです。

近年就職する際に必須とも言われている英語力ですが、一朝一夕に実力がつくものではありません。そこで、「図書館留学」と銘打ち、図書館が、英語を学習できる場と、適切な資料を提供することにより、英語力アップを図れる環境を整え、また、様々な企画により、学生が英語に興味、関心を持ち、楽しく英語学習を継続できるよう、支援していくこととしました。

「図書館留学」の構成は、2013 年4月1日現在、以下の10 種類のメニューからなり、様々な形で図書館から学生に支援を提供しています。

- ① 図書館留学コーナー
- ② My Favorite Book コーナー
- ③ Bilingual Library
- ④ 多読ラリー「てくてく English」
- ⑤ 多聴ラリー「English シャワー」
- ⑥ シネマで週1English
- ⑦ Reading Square ～英語で語ろう！～
- ⑧ 英語で Book Talk
- ⑨ 英語で Talk ～Let's enjoy English～
- ⑩ キャリアコーナー「世界を舞台に働く！」

研究発表 4

「ラーニング・コモンズ HJUについて」

広島女学院大学図書館 田尾 真理子

2010 年度、図書館1Fに学習のサポートをする新しい知のコミュニケーション広場「ラーニングコモンズ(学習共有スペース)」が誕生しました。Heatful commons、Joyful commons、Useful commons という3つの部屋の頭文字をとって、「ラーニングコモンズ HJU」と呼んでいます。

Heatful commons には、ソファを配置し、ゆったりと各種新聞を読むことができるくつろぎの部屋です。学生だけでなく、一般利用者も多く利用しています。Joyful commons では、視聴覚資料が利用できます。移動式の机や椅子を設置していますので自由に動かし、仲間とディスカッションもできる部屋です。この部屋は学生の利用が多く、常にだれかが利用している状態です。Useful commons は閲覧室の一角にあるスペースです。窓ぎわがパソコンコーナーになっており、レポートや卒論などの作成ができます。この場所にライブラリーアドバイザーの席があり、夏期休業中を除き、週 4 日、2 名のライブラリー・アドバイザーが図書館の資料を利用して学生の学習をサポートしていますので、わからないことがあるとすぐに質問でき、的確なアドバイスを受けることができます。また、図書館HPから予約し、時間を決めて学習のサポートを受けることもできます。

2012 年度は 221 件の相談がありました。主な相談内容はレポートや論文の書き方に関するものです

ラーニング・コモンズ HJU は今年で4年目を迎えたが、ライブラリー・アドバイザーの知名度がまだ低く、知名度のアップが課題です。

研究発表 5

「文学等における歯のハナシ」

福岡歯科大学情報図書館 白水 哲雄

1枚の銀貨の実体を知るには、表からも裏からも、縦からも横からもながめなくてはならない。視野が狭く一つの見方しか知らないということは、ものごとのほんとうの姿を捉えることができず、またそれだけに危険な生活態度だといえる。(高間直道著『人生哲学入門：人間・思想・用語』から抜粋)

しかし、ある特殊な視点で観ると、コペルニクス的転回のように物事の見方が 180 度変わってしまうような場合もある。

文学等の作品を“歯科および口腔医学”という観点でみるとどうなるのかを試みたら、見えなかつたものが見えてきたり、新たな側面が明らかになったりして、よりその作品が持つ素晴らしい魅力や奥深さに感嘆することも少なくないという非常に面白い結論が得られた。そのダイジェスト版を昨年の九州地区研究会にて発表したところ「もっと詳しく聞きたい」というありがたい評価を得た。

そこで今回は、日本特有の文化である“お歯黒”というテーマに絞って考察してみたい。

そもそも岡山県備前市香登(かがと)といえば“お歯黒の古里”と言つても過言ではなく、ここで造られていた香登お歯黒は、唐僧、鑑真和尚によって伝えられたお歯黒であり、独占的に製造され、第二次世界大戦直後まで、日本全国に売りだされていた処である。

なお、引用する文学等は次のとおりである。

『魏志倭人伝』、『古事記』、紫式部著『源氏物語』、『紫式部日記』、『堤中納言物語』、吉川英治著『新・平家物語』、司馬遼太郎著『国盗り物語』、ペリー著『ペリー艦隊日本遠征記』、アーネスト・サトウ著『一外交官の見た明治維新』、新美南吉著『ごん狐』、寺田寅彦著『自由画稿』ほか